

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3893700025
法人名	社会福祉法人伊方社会福祉協会
事業所名	グループホーム三崎つわぶき荘
所在地	愛媛県西宇和郡伊方町三崎4414番地1
自己評価作成日	平成 28年 6月 21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 28年 7月 26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日本一細長い佐田岬半島にあり、晴れた日には豊予海峡を隔てて九州を遠望することができます。事業所の周りにはミカン畑があり、その一角を借りて、利用者と一緒にミカンや季節の野菜を栽培しています。また2階には特養を併設しており行事やミュージックケアを合同で行い、交流を図っています。施設全体で、介護力向上に取り組んでおり、食事、運動、排泄の基本のケアを確実に行うことで認知機能の向上を図り、できるだけ自立した生活を続けることができるよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

佐田岬半島に建つ、鉄筋コンクリート2階建ての事業所は、地域密着型特別養護老人ホームに併設され、1階にグループホームがある。中学校や高校の職場体験の受け入れや、保育園や小学校との交流もあり、施設全体で積極的に地域との交流が行われている。運営推進会議にも多くの地域住民の参加がある。職員の研修会参加や指導体制についても、法人として確立されたものがあり、施設内外の勉強会への参加の機会が豊富である。管理者は、職員間で話し合い理念を見直し「ここに入所して良かったと思って頂けるグループホームを作る」ことの実現に向けて積極的に取り組んでいる。利用者は自立した日常生活を継続しながら、穏やかに笑顔で過ごしていることからそのことが伺える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム三崎つわぶき荘

(ユニット名) たんぽぽユニット

記入者(管理者)

氏名 井上 祥子

評価完了日

42542

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 開設前から2回理念の見直しを行ったが、職員一人ひとりに浸透していなかった。そのため今年度新たに理念を作成し、共有スペースの壁に掲示している。理念の実現に向けてのケアの方針についても話し合いを行いその内容も掲示し実践できるよう取り組んでいる。	
			(外部評価) 開設3年目に3回目の理念の見直しをし、より分かりやすい言葉にするため、職員間で話し合いを行い「ここに入所して良かったと思って頂けるグループホームを作る」新理念を2つのユニットをつなぐよく見える場所に掲示している。また、家族には、ホーム便りに掲載して事業所の新しい理念の理解を得られるようにしている。毎月の勉強会や日々のケアの中で、職員間で理念について話し合いを行い実践につなげている。新人職員には、入職時に理念の趣旨を説明し共有している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 運動会や文化祭、秋祭り等の地域行事に利用者と一緒に参加している。中高生の職場体験の受け入れを行ったり、保育園児や小学生の来荘により交流を図っている。また今年度からデイサービスにも出向いて、地域の高齢者との交流の機会も作っている。	
			(外部評価) 施設全体で地域との交流に積極的に取り組んでいる。運動会や文化祭や秋祭り等の地域行事に、利用者と参加して地域住民との交流をしている。生け花や茶道クラブの「ほのぼの喫茶」は、地域のボランティアの定期的な訪問があり、玄関先には、利用者の生け花の作品が多数展示されている。夏の盆踊り交流には、多くの家族や中学生や高校生や地域の方々の参加があり、利用者や職員の楽しみの行事になっている。管理者は、地域の人たちとの交流を深めるため、事業所にふれあいサロンを設けたいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 中学生を対象にして高齢者疑似体験を行い、高齢者の心身の特徴を理解し、関わり方を考えて頂く授業を行った。また学生の職場体験や民生委員の見学会等を通じて認知症の理解、グループホームの役割等を説明している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 定期的に運営推進会議を開催し、事業所の取り組みを報告したり、行事等に参加してもらい、意見をいただいている。今年度からは新たに小中高校の先生も参加してもらっている。また他の事業所の運営推進会議に参加することで情報交換ができ、サービスの向上に繋がっている。	
			(外部評価) 運営推進会議には、利用者や家族、町職員、地域包括支援センター職員、介護相談員、区長、民生委員、小中高校の教員、国際交流員等の参加を得て、2か月に1回開催している。会議では、事業所の状況や活動報告、意見交換を行っている。また、テーマを決めて介護力向上を目的に勉強会を行っている。会議に参加されない家族には面会時に、玄関に置いている会議の議事録を自由に閲覧できるようにしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議に委員として参加してもらい、細かな現状報告を行っている。また利用者の入退所時や介護保険の更新の際に情報共有をしたり、介護相談員の受け入れを行い、ご意見をいただいている。	
			(外部評価) 町職員及び地域包括支援センター職員は、運営推進会議に出席して事業所の実情を把握するとともに、情報の提供や助言を行っている。また、入院が長期になった場合の利用者の分からないことや疑問等の相談をしている。介護相談員が2か月に1回訪問し、利用者の話をよく聴いてくれ喜ばれている。毎月開催される、虐待の研修や勉強会等にも参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 毎月の拘束廃止虐待防止委員会で全職員が記入したチェックリストをもとに身体拘束廃止に向けた話し合いをしている。また勉強会を開催し身体拘束をしないケアについての理解を深め実践に繋げている。	
			(外部評価) 玄関は自動ドアで自由に出入りできるようになっており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。法人の身体拘束虐待防止委員会が作成したチェックリストを職員全員で毎月記録し、話し合いを行い身体拘束防止ができていないか確認をし、実践に向けた取組みができていない。また、身体拘束や言葉の拘束についても、職員の知識を深めるため勉強会を行っている。言葉の拘束については特に留意し、気が付いた時に職員間で注意するようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 毎月の拘束廃止虐待防止委員会で全職員が記入したチェックリストをもとに不適切ケアやグレーゾーンに不適切ケアやグレーゾーンについて改善に向けた話し合いをしている。また面接や職員会、ユニット会を通じて介護方法や声かけの仕方について話し合っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護に関する研修は実施していない。今後は包括支援センターと連携して勉強会の開催を検討する。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所の契約時には、家族に重要事項説明書と契約書の内容を十分に説明しご理解頂いている。また利用者、家族の不安や疑問に対しては丁寧に説明し納得して頂いている。入所後に契約内容を変更する際には2ヶ月前に文書で説明を行い同意を得ている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 正面玄関にご意見箱を設置している。また家族会の会員になって頂き、年1回家族会総会を開催し、ご意見を伺う機会としている。面会時や電話、毎月の通信等で日常生活の様子を報告し、意見や要望を伝えやすいように努めているが要望は少ない。 (外部評価) 家族会は、併設の特別養護老人ホームと合同で年1回開催しているが、平日は参加者が少ないため、土日の休日に変更を検討している。家族会の総会の様子はホーム便りに掲載している。運営推進会議や面会時等で意見や要望を聞くようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の見 意見や提案を聞く機会を設け、反映させてい る	(自己評価) 年2回個人面談を行い、運営に関する職員の意見を聞いている。また職員会、リーダー会、各種委員会やユニット会を通じて様々な視点での意見や提案を聞き、反映させている。	
			(外部評価) 職員全員が参加して毎月1回職員会を開催し、運営に関する意見を出し合っている。管理者は出された意見を施設長に伝え反映している。法人は職員の質の向上を図るため、資格取得のための補助金制度や、研修参加ができるように勤務体制を整えて、研修を受けやすい配慮をしている。また、年2回個人面談を行い、職員個々の目標達成状況を確認しながら、職員と意思疎通を図るとともに資格取得を奨励し支援している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 年1回人事考課を行い、努力や実績、勤務状況を評価している。資格取得のための補助金制度や講習に参加できるよう勤務態勢を整えている。介護福祉士の資格を取得した希望者には、正職員登用の機会を設け向上心を持って働けるよう努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 職員は、チャレンジカードを使い段階に応じた目標を立て、計画、評価を繰り返し行っている。チャレンジカードには参加したい研修や取りたい資格等も記入し、希望する研修に参加できるようにしている。また法人内で施設長やリーダー研修終了者を講師として定期的に勉強会を実施し多くの職員が学べる機会を確保している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 町内事業所相互の運営推進会議に参加し、情報交換やネットワーク作りを努めている。また行事を通じて他のグループホームやデイサービスとの交流も図れている。施設内勉強会にも他事業所や病院等に案内してサービスの質の向上に取り組んでいる。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入所前の面談やアセスメントにより本人の思いや生活歴を聞き取り、職員間で情報を共有している。可能な方には家族にアセスメントを記入してもらい本人の困っていることや不安なこと、要望等を把握している。入所後は様子を観察し、本人の思いに耳を傾け信頼関係づくりに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 面談や契約時に家族の不安や要望等に耳を傾け、グループホームでの生活について、丁寧に説明し安心して頂けるよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入所前の面談や契約時に本人や家族の要望を聞き取っている。また担当のケアマネージャーからの情報をもとに対応している。入所申込時等に状況に応じて相談窓口の紹介や他のサービスの情報提供を行っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 料理、家事、園芸などできることは手伝って頂いたり、やり方を教えてもらい共に暮らしているという気持ちで日々の関係を築いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会に来られない家族にも日々の様子が分かるように毎月の通信には、必ず全利用者の写真を掲載し、近況を報告している。また外出や外泊、定期的な面会等もあり家族と共に本人を支えるよう協力関係を築いている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ふるさと訪問や地元の行事に参加し、家族や馴染みの人との交流が図れるように努めている。	
			(外部評価) 利用者や家族から、これまでの馴染みの人や場所の情報を聞き取っている。「ふるさと訪問」として、事業所から事前に近所の人たちと再会ができるよう調整を行い、職員2人が付き添い、自宅に帰り近所の方々と久しぶりに再会し喜ばれている。また、友人や知人の訪問もあり、馴染みの関係が継続できるよう支援している。お墓参りに家族の協力を得て出かけるなど、利用者の希望が叶えられるよう配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士で協力して洗濯物の仕分けをしたり、畳んだりしている。落ち着きなく動き回る方も、他の利用者と一緒にソファに座り、談話しながらゆっくり過ごす場面も増えている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所者の殆どが、法人内の特養へ入所されている。特養でも継続して同じような支援が受けられるよう、生活の様子や支援方法を詳しく相互訪問や行事などで交流をして相談や支援に努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 普段の会話や表情、アセスメントを通じて、希望や意向の把握に努めている。	
			(外部評価) 入居時にセンター方式を活用し、利用者一人ひとりの思いや希望を聞き取り、家族の思いや暮らし方の希望を把握するように努めている。認知症の進行により意思疎通が困難な利用者の場合は、日常の様子から表情や行動等で察したり、気分転換ができるように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所前の面談や担当ケアマネやサービス事業所から情報を収集し、生活歴や馴染みの暮らし方を把握し、本人の意向に沿った支援が行えるよう努めている。入所後は、日常の会話を通じてこれまでの生活の様子を伺い、馴染みの暮らしを提供できるように努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) ケース記録、申し送り、連絡ノート、モニタリング等を使用し、職員間での情報の共有と連携を図り現状を把握している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人や家族から意見や要望を聞き、本人の状態や職員の意見を反映して介護計画を作成している。往診時には、主治医から助言をもらいケアに活かしている。	
			(外部評価) センター方式を活用し、利用者や家族の意向を踏まえて、介護計画に反映している。管理者と担当職員と勤務者で、ケアカンファレンスを行い、介護計画作成担当者が介護計画を作成している。毎月担当者がモニタリングを行っている。事業所では介護計画、ケース記録、モニタリング等をすべてパソコンで管理しているため、職員全員が介護計画の内容を把握し共有することができている。管理者は介護計画に沿ったケース記録の充実を図りたいと考えている。県外に在住する家族には、介護計画を郵送し同意を得ているが、電話での説明は全ての家族にはできていない。	利用者の担当制を取り、日々のケアの実践をケース記録に記録しているが、介護計画に沿ったケース記録の充実を図り、モニタリングに反映するとともに、より良い介護計画を作成し、ケアの質の向上が図られることを期待したい。また、家族と介護計画の内容について話し合いを行い、意向の確認が図れることを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 利用者の日々の様子や言葉、実践したケア等をケース記録に詳しく記入することで、職員間で情報共有ができており、介護計画の見直しに活かすようにしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 病院受診の送迎や同行を行っている。馴染みの美容師にカットをしてもらえるよう調整をしたり、パーマを希望される場合は地域の美容室への送迎も行う。また以前に入所していた施設を訪問したい希望者には、施設と連絡調整を行い施設訪問を行っている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域の方と協働し、様々な行事を行っている。また地域の催し物の情報を得て参加している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 特養の嘱託医をかかりつけ医として、月2回の定期往診を受け ている。緊急時には、夜間や休日の対応も可能となっている。 主治医からの紹介による専門医の受診は、職員が付き添い支援 している。又週1回歯科往診があり、必要時には受診できる体 制となっている。	
			(外部評価) 受診は従来のかかりつけ医を継続している利用者もいるが、診 療所の閉鎖等の関係で、協力医が月2回往診をしてくれるため 変更することもある。また、歯科の往診や眼科などの専門医 の受診支援を家族の協力により行っているほか、緊急の場合は 併設の特別養護老人ホームの看護師と連携を図るなどし対応し ている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 毎日の朝礼で併設の特養看護師に利用者の状況を報告してい る。また週1回看護しによるバイタル測定を行い、医療面の助 言をしてもらっている。看護師とは24時間連絡が取れ、医療 連携の体制も整えている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には、家族同席のもと必要な情報を伝え、安心して治療 ができるよう支援している。また入院中も面会に行き状態把握 に努めている。退院時には医療連携室を通じて入院時の様子や 退院後の生活における注意事項等の情報交換を行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 看取りの指針を定め、入所時に説明を行い同意を得ている。重 度化した場合には、家族の意向を確認しながら、家族、医師、 看護師、職員が連携し、安らかに最期を迎えられるような支援 に取り組んでいる。	
			(外部評価) 重度化した場合における(看取り)指針を作成しており、今ま でに利用者と家族の要望に応じて、1名の看取りを行っている。 重度化した場合には、その都度説明を行って家族の同意を 得ている。終末期には家族も寝泊りできるような環境を整えてい る。定期的に職員の勉強会を実施しており、終末期のケアを経 験したことについて話し合いを行い、振り返りを行うことで職 員の不安の軽減ができています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急時のマニュアルを作成し、周知徹底を図っている。消防署立会の避難訓練の際に救命処置の訓練を行っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回火災の避難訓練を実施し、利用者が避難する方法を身につけている。その他原子力災害、土砂災害の避難訓練も行っているが、地域との協力体制は整っていない。今後は、防災委員会を中心に地域の自主防災組織を交えての避難訓練が必要と考えている。 (外部評価) 年2回消防署の協力を得て、火災の避難訓練を実施している。その他に原子力災害や土砂災害の避難訓練も行っている。職員緊急連絡網を整備し、実践訓練を年2回行っている。法人合同の防災委員会を中心にして、地域の協力体制の充実が図れるよう、防災委員長が消防団に所属しており、地域の自主防災組織との連携を進めている。 備蓄品も整備されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 「ここに入所して良かったと思っただけのグループホームを作る。」という理念のもと、人生の先輩に対して敬う気持ちを忘れずに、人としての尊厳を守り、笑顔で言葉かけや対応ができるよう努めている。 (外部評価) 職員は思いやりのある言葉遣いをするように心がけ、人生の先輩である認識をもってケアに取り組んでいる。接遇の勉強会を行い、職員全員が正しい言葉遣いを理解し、利用者の不快にならないよう気を付けて支援している。身体をさらず場面として、排泄や入浴時の羞恥心への配慮もされている。個人情報の管理は厳重にされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者が答えやすいような質問の仕方をしたり、表情を読みとったりと、その方に応じた声掛けを行い、自己決定できるように働きかけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 食事や体操の時間は決まっているが、その他は一人ひとりのペースに合わせた暮らしができるよう支援している。本人の意向を尊重して、希望した時のみ行事、レク等へ参加して頂いている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 着替えの時には、好みの洋服を選んで頂いている。出張美容は三ヶ所あり、それぞれ好きな美容室でカットをしておしゃれを楽しんでいる。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者の役割として、食事作りや後片づけを分担して行っている。月2回は行事食の日を設け、厨房で作った季節感あふれる食事を提供している。苦手な献立の場合は代替えにして提供し、食事を楽しんでもらっている。	
			(外部評価) 栄養委員会で1年分の献立を決めており、毎月の献立を管理者が調整し、併設の特別養護老人ホームの栄養士のアドバイスをもらっている。各ユニットで事業所の畑で採れた新鮮な野菜を調理している。利用者到手伝してもらいながら、食事作りや後片付けを行っている。職員も一緒にテーブルを囲み、介助しながら同じ料理を食べている。また、利用者の嗜好に応じた食事を工夫し、箸や茶碗や湯呑は個人の物を使用している。外食や毎月2回の行事食も提供し、利用者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) チェック表で個々の食事量と水分量を確認している。介護力向上委員会の取り組みにより、飲み物の工夫やこまめな水分補給で必要な水分量を確保できるよう支援している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 本人の力に応じた口腔ケアを行っている。自立の方には声掛けを行っているが、毎食後はできていないこともある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表を活用し、ひとり一人の排泄パターンを把握して、誘導や声掛けを行い、トイレでの排泄を支援している。	
			(外部評価) 利用者の排泄パターンを把握して、一人ひとりの状態に合わせて支援している。日中は布パンツを使用している利用者も、夜間失禁のある場合はリハビリパンツを使用して、トイレ誘導を心がけて支援している。夜間のみポータブルトイレを使用するなど、利用者に応じた排泄支援が行われている。トイレには、跳ね上げ式のアームレス等を設置し、利用者が安心、安全に使用できるように配慮されている。また、排泄に失敗があった時には、トイレ内にシャワー室が設置され、清潔保持ができるように配慮されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排泄チェック表を活用し排便の確認をしている。介護力向上の取り組みに基づき、食事、水分、運動を確実に行うと共に、食物繊維ファイバーや乳酸菌飲料、ヨーグルトを飲用し、できるだけ下剤に頼らず自然排便できるよう支援している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴前にバイタルチェックを行い、本人の希望を聞きながら入浴してもらっている。希望者には同性介助を行い、入浴を嫌がる方には、声掛けの仕方を工夫しながら入浴して頂いている。個々の状況に応じて入浴日以外にも足浴を行っている。	
			(外部評価) 浴槽は檜風呂の個浴で、両側から介助ができるように設置されている。脱衣室は床暖房が完備され室温調整できる。爪切りなど殺菌するボックスも設けており、衛生管理ができています。入浴用のタオルも利用者の好みに応じて個人用に準備されている。入浴は週2回であるが、希望があれば毎日でも対応できるようにしている。入浴の苦手な利用者には、声かけを工夫している。入浴介助はできる限り同性介助を心がけており、心地よく入浴できるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人ひとりの生活習慣に合わせて、休みたいときに休息が取れるようにしている。居室に限らず本人が落ち着ける場所で休んで頂けるよう配慮し、本人のペースで安心して休息できるよう支援している。夜間眠れない方には、ゆっくり話しを聞いたりと、側に寄り添い安心して眠れるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 利用者の薬についてファイルを作成し、種類、作用、量について分かるようにしている。また薬の変更時には、引き継ぎや申し送りノートに記載し周知している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 菜園や中庭、ベランダで野菜を作ったり、掃除や洗濯、調理等、一人ひとりが得意な事を毎日の役割として行い、張りのある生活が送れるよう支援している。またホールや屋外への散歩等で気分転換が図れるよう支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) できるだけ外出の機会が増えるよう計画をしている。何気ない日常の会話を通じて希望を伺い、足湯や外食、催し物等へ出かけられるよう支援している。 (外部評価) 事業所は高台にあり坂道があるため、日常的に敷地内の散歩をしたり、果樹や野菜の畑で職員と一緒に水やりや収穫をしたりしている。また、2つのユニットと広い地域交流ホールが回廊となっているため、1日数回利用者は職員と一緒に楽しく話しながら、体力維持を目的に歩いている。広いホールにはベランダがあり、ベンチに座り海を眺めながら外気浴もでき、利用者の気分転換になっている。利用者の希望に応じて、ふるさと訪問をしたり、家族と一緒に墓参りに外出したりしている。道の駅で買い物したり、足湯や外食をしたり楽しめるように支援している。なお、管理者は感染防止対策のため外出できない期間があり、外出できる時期の支援について検討している。	感染防止対策の必要性を考慮しながら、事業所の立地条件から遠出の外出となることも考えられる。管理者は外出の大切さを理解しており、利用者一人ひとりの思いを大切に、外出計画等を作成することを期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 入所時に、現金は預からないことを説明し同意して頂いている。本人の希望があり、家族の同意があれば少額のお金を所持し、自販機で自由にジュースを購入する人もいる。外出時には立て替え払いで買い物をしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話を掛けたいと希望がある時には、できる限り対応している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 適切な温度や湿度調整を心がけたり、花やディスプレイで季節感を取り入れ、居心地の良い空間作りに努めている。またトイレの目印を掲示したり、居室入り口には本人の写真を掲示し、居室を間違えないよう配慮している。</p> <p>(外部評価) 2つのユニットは廊下でつながり、中央にスタッフルームが設けられ、広い地域交流ホールはドアで仕切られているが、自由に行き来ができるようになっている。リビングにはオープンキッチンや食卓や畳コーナーも設置されている。各所にソファが置かれ、休息できるスペースになっている。壁には食事前に口腔体操で使用される言葉が掲示されていたり、季節を感じることができるよう利用者の作品が飾り付けてある。玄関には利用者の作品の生け花が展示されている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) それぞれ思い思いの場所で過ごせるよう、ソファを置くなどして工夫している。冬には畳コーナーにこたつを置き自由に過ごせるようにしている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 入所時には家族に依頼して家族の写真や使い慣れた家具等、馴染みの物を持ち込んで頂き、居心地よく過ごせるようにしている。</p> <p>(外部評価) 居室には低床にできる電動ベッド、クローゼット、エアコン、洗面台、鏡、床頭台、時計、温度計、湿度計が備え付けられて、空調管理ができています。トイレ付きの居室もユニットに2室ある。利用者が使い慣れたテーブルや椅子、テレビや家族写真の持ち込みができ、利用者と家族が相談しながら安心して居心地よく過ごせる居室づくりに努めている。また、利用者と職員が一緒に作ったのれんが居室に掛けられている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 一人ひとりの「わかること」や「できること」をカンファレンスやユニット会で話し合い、今ある力を発揮して可能な限り自立した生活が送れるように支援している。</p>	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3893700025
法人名	社会福祉法人伊方社会福祉協会
事業所名	グループホーム三崎つわぶき荘
所在地	愛媛県西宇和郡伊方町三崎4414番地1
自己評価作成日	平成 28年 6月 21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 28年 7月 26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日本一細長い佐田岬半島にあり、晴れた日には豊予海峡を隔てて九州を遠望することができます。事業所の周りにはミカン畑があり、その一角を借りて、利用者と一緒にミカンや季節の野菜を栽培しています。また2階には特養を併設しており、行事やミュージックケアを合同で行い、交流を図っています。施設全体で、介護力向上に取り組んでおり、食事、運動、排泄の基本のケアを確実に行うことで認知機能の向上を図り、できるだけ自立した生活を続けることができるよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

佐田岬半島に建つ、鉄筋コンクリート2階建ての事業所は、地域密着型特別養護老人ホームに併設され、1階にグループホームがある。中学校や高校の職場体験の受け入れや、保育園や小学校との交流もあり、施設全体で積極的に地域との交流が行われている。運営推進会議にも多くの地域住民の参加がある。職員の研修会参加や指導体制についても、法人として確立されたものがあり、施設内外の勉強会への参加の機会が豊富である。管理者は、職員間で話し合い理念を見直し「ここに入所して良かったと思って頂けるグループホームを作る」ことの実現に向けて積極的に取り組んでいる。利用者は自立した日常生活を継続しながら、穏やかに笑顔で過ごしていることからそのことが伺える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム三崎つわぶき荘

(ユニット名) ひまわりユニット

記入者(管理者)

氏名 井上 祥子

評価完了日

平成28年6月21日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 開設前から2回理念の見直しを行ったが、職員一人ひとりに浸透していなかった。そのため今年度新たに理念を作成し、共有スペースの壁に掲示している。理念の実現に向けてのケアの方針についても話し合いを行いその内容も掲示し実践できるよう取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 開設3年目に3回目の理念の見直しをし、より分かりやすい言葉にするため、職員間で話し合いを行い「ここに入所して良かったと思ってくれるグループホームを作る」新理念を2つのユニットをつなぐよく見える場所に掲示している。また、家族には、ホーム便りに掲載して事業所の新しい理念の理解を得られるようにしている。毎月の勉強会や日々のケアの中で、職員間で理念について話し合いを行い実践につなげている。新人職員には、入職時に理念の趣旨を説明し共有している。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 運動会や文化祭、秋祭り等の地域行事に利用者と一緒に参加している。中高生の職場体験の受け入れを行ったり、保育園児や小学生の来荘により交流を図っている。また今年度からデイサービスにも出向いて、地域の高齢者との交流の機会も作っている。</p> <p>(外部評価) 施設全体で地域との交流に積極的に取り組んでいる。運動会や文化祭や秋祭り等の地域行事に、利用者と参加して地域住民との交流をしている。生け花や茶道クラブの「ほのぼの喫茶」は、地域のボランティアの定期的な訪問があり、玄関先には、利用者の生け花の作品が多数展示されている。夏の盆踊り交流には、多くの家族や中学生や高校生や地域の方々の参加があり、利用者や職員の楽しみの行事になっている。管理者は、地域の人たちとの交流を深めるため、事業所にふれあいサロンを設けたいと考えている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 中学生を対象にして高齢者疑似体験を行い、高齢者の心身の特徴を理解し、関わり方を考えて頂く授業を行った。また学生の職場体験や民生委員の見学会等を通じて認知症の理解、グループホームの役割等を説明している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 定期的に運営推進会議を開催し、事業所の取り組みを報告したり、行事等に参加してもらい、意見を頂いている。今年度からは小中高校の先生も参加してもらっている。また他の事業所の運営推進会議に参加することで情報交換ができ、サービスの向上に繋がっている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議には、利用者や家族、町職員、地域包括支援センター職員、介護相談員、区長、民生委員、小中高校の教員、国際交流員等の参加を得て、2か月に1回開催している。会議では、事業所の状況や活動報告、意見交換を行っている。また、テーマを決めて介護力向上を目的に勉強会を行っている。会議に参加されない家族には面会時に、玄関に置いている会議の議事録を自由に閲覧できるようにしている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組を積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議に委員として参加してもらい、細かな現況報告を行っている。また利用者の入退所時や介護保険の更新の際に情報共有をしたり、介護相談員の受け入れを行いご意見を頂いている。</p> <p>(外部評価) 町職員及び地域包括支援センター職員は、運営推進会議に出席して事業所の実情を把握するとともに、情報の提供や助言を行っている。また、入院が長期になった場合の利用者の分からないことや疑問等の相談をしている。介護相談員が2か月に1回訪問し、利用者の話をよく聴いてくれ喜ばれている。毎月開催される、虐待の研修や勉強会等にも参加している。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 毎月の拘束廃止虐待防止委員会で全職員が記入したチェックリストをもとに身体拘束廃止に向けた話し合いをしている。また勉強会を開催し身体拘束をしないケアについての理解を深め実践に繋げている。</p> <p>(外部評価) 玄関は自動ドアで自由に入出りできるようになっており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。法人の身体拘束虐待防止委員会が作成したチェックリストを職員全員で毎月記録し、話し合いを行い身体拘束防止ができていないか確認をし、実践に向けた取組みができていない。また、身体拘束や言葉の拘束についても、職員の知識を深めるため勉強会を行っている。言葉の拘束については特に留意し、気が付いた時に職員間で注意するようにしている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 毎月の拘束廃止虐待防止委員会で全職員が記入したチェックリストをもとに不適切ケアやグレーゾーンについて改善に向けた話し合いをしている。また面接や職員会、ユニット会を通じて介護方法や声かけの仕方について話し合い、お互いが注意しあえる関係づくりに取り組んでいる。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護に関する研修は実施していない。今後は包括支援センターと連携して勉強会の開催を検討する。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所の契約時には家族に重要事項説明書と契約書の内容を十分に説明しご理解頂いている。また利用者、家族の不安や疑問に対しては丁寧に説明し納得して頂いている。入所後に契約内容を変更する際には2月前に文書で説明を行い同意を得ている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 正面玄関にご意見箱を設置している。また家族会の会員になって頂き、年1回家族会総会を開催し、ご意見を伺う機会としている。面会時や電話、毎月の通信等で日常生活の様子を報告し、意見や要望を伝えやすいように努めているが要望は少ない。 (外部評価) 家族会は、併設の特別養護老人ホームと合同で年1回開催しているが、平日は参加者が少ないため、土日の休日に変更を検討している。家族会の総会の様子はホーム便りに掲載している。運営推進会議や面会時等で意見や要望を聞くようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 年2回個人面談を行い、運営に関する職員の意見を聞いている。また職員会、リーダー会、各種委員会やユニット会を通じて様々な視点での意見や提案を聞き、反映させている。</p> <p>(外部評価) 職員全員が参加して毎月1回職員会を開催し、運営に関する意見を出し合っている。管理者は出された意見を施設長に伝え反映している。法人は職員の質の向上を図るため、資格取得のための補助金制度や、研修参加ができるように勤務体制を整えて、研修を受けやすい配慮をしている。また、年2回個人面談を行い、職員個々の目標達成状況を確認しながら、職員と意思疎通を図るとともに資格取得を奨励し支援している。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 年1回人事考課を行い、努力や実績、勤務状況を評価している。資格取得のための補助金制度や講習に参加できるよう勤務態勢を整えている。介護福祉士の資格を取得した希望者には、正職員登用の機会を設け向上心を持って働けるよう努めている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 職員は、チャレンジカードを使い段階に応じた目標を立て、計画、評価を繰り返し行っている。チャレンジカードには参加したい研修や取得したい資格等も記入し、希望する研修に参加できるようにしている。また法人内で施設長やリーダー研修修了者を講師として定期的に勉強会を実施し、多くの職員が学べる機会を確保している。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 町内事業所相互の運営推進会議に参加し、情報交換やネットワーク作りに努めている。また行事を通じて他のグループホームやデイサービスとの交流も図れている。施設内勉強会にも他事業所や病院へも案内をしてサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 入所前の面談時のアセスメントにより本人の思いや生活歴を聞き取り、職員間で情報を共有している。可能な方には家族にアセスメントを記入してもらい本人の困っていることや不安なこと、要望等を把握している。入所後は様子をよく観察し、しっかりと向き合い本人の思いに耳を傾け、信頼関係作り努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 面談や契約時に家族の不安や要望等に耳を傾け、グループホームでの生活について、丁寧に説明し安心していただけるよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入所前の面談や契約時に本人や家族の要望を聞き取っている。また担当ケアマネージャーからの情報をもとに対応している。入所申込時等に状況に応じて相談窓口の紹介や他のサービスの情報提供を行っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 料理、家事、園芸等できることは手伝って頂いたり、やり方を教えてもらい、共に暮らしているという気持ちで日々の関係を築いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会に来られない家族にも日々の様子が分かるよう、毎月の通信には必ず全利用者の写真を掲載し、近況を報告している。また外出や外泊、定期的な面会等もあり家族と共に本人を支えるよう協力関係を築いている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ふるさと訪問や地元の行事に参加し、家族や馴染みの人との交流が図れるように努めている。 (外部評価) 利用者や家族から、これまでの馴染みの人や場所の情報を聞き取っている。「ふるさと訪問」として、事業所から事前に近所の人たちと再会ができるよう調整を行い、職員2人が付き添い、自宅に帰り近所の方々と久しぶりに再会し喜ばれている。また、友人や知人の訪問もあり、馴染みの関係が継続できるよう支援している。お墓参りに家族の協力を得て出かけるなど、利用者の希望が叶えられるよう配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 他の利用者から非難されることがないように、利用者の関係性に応じて座席を変更したり、意図的に場面転換をして、利用者が孤立せずに、お互いを認め合えるよう介入している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 殆どの利用者が法人内の特養へ入居されている。特養でも同じような支援が受けられるよう生活の様子や介護方法を詳しく伝えている。また退所後も相互訪問や行事などで交流をして相談や支援に努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 普段の会話や表情、アセスメントを通じて、希望や意向の把握に努めている。 (外部評価) 入居時にセンター方式を活用し、利用者一人ひとりの思いや希望を聞き取り、家族の思いや暮らし方の希望を把握するように努めている。認知症の進行により意思疎通が困難な利用者の場合は、日常の様子から表情や行動等で察したり、気分転換ができるように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所前の面談や担当ケアマネージャーやサービス事業所から情報を収集し、生活歴や馴染みの暮らし方を把握し、本人の意向に沿った支援が行えるよう努めている。入所後は、日常の会話を通じてこれまでの生活の様子を伺い、馴染みの暮らしを提供できるよう努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) ケース記録、申し送り、連絡ノート、モニタリング等を使用し、職員間での情報の共有と連携を図り現状を把握している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人や家族から意見や要望を聞き、本人の状態や職員の意見を反映して介護計画を作成している。往診時には、主治医から助言を頂きケアに活かしている。 (外部評価) センター方式を活用し、利用者や家族の意向を踏まえて、介護計画に反映している。管理者と担当職員と勤務者で、ケアカンファレンスを行い、介護計画作成担当者が介護計画を作成している。毎月担当者がモニタリングを行っている。事業所では介護計画、ケース記録、モニタリング等をすべてパソコンで管理しているため、職員全員が介護計画の内容を把握し共有することができている。管理者は介護計画に沿ったケース記録の充実を図りたいと考えている。県外に在住する家族には、介護計画を郵送し同意を得ているが、電話での説明は全ての家族にはできていない。	利用者の担当制を取り、日々のケアの実践をケース記録に記録しているが、介護計画に沿ったケース記録の充実を図り、モニタリングに反映するとともに、より良い介護計画を作成し、ケアの質の向上が図られることを期待したい。また、家族と介護計画の内容について話し合いを行い、意向の確認が図れることを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 利用者の日々の様子や言葉、実践したケア等をケース記録に詳しく記入することで、職員間の情報共有ができており、介護計画の見直しに活かすようにしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 病院受診の送迎や同行を行っている。馴染みの美容師にカットをしてもらえるよう出張美容の調整をしたり、パーマを希望される場合には、地域の美容室への送迎も行っている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域の方と協働し、様々な行事を行っている。また地域の催し物の情報を得て参加している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 特養の嘱託医をかかりつけ医として、月2回の定期往診を受けている。緊急時には夜間や休日の対応も可能となっている。主治医からの紹介による専門医の受診は、職員が付き添い支援している。また週1回歯科往診があり必要時には受診出来る体制となっている。	
			(外部評価) 受診は従来のかかりつけ医を継続している利用者もいるが、診療所の閉鎖等の関係で、協力医が月2回往診をしてくれるため変更することもある。また、歯科の往診や眼科などの専門医の受診支援を家族の協力により行っているほか、緊急の場合は併設の特別養護老人ホームの看護師と連携を図るなどし対応している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 毎日の朝礼で併設の特養看護師に利用者の状況を報告している。また週1回看護師によるバイタル測定を行い、医療面の助言をしてもらっている。看護師とは24時間連絡が取れ、医療連携の体制も整えている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には、家族同席のもと必要な情報を伝え、安心して治療ができるよう支援している。また入院中も面会に行き状態把握に努めている。退院時には医療連携室を通じて入院時の様子や退院後の生活における注意事項等の情報交換を行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 看取りの指針を定め、入所時に説明を行い同意を得ている。重度化した場合には、家族の意向を確認しながら、家族、医師、看護師、職員が連携し、安らかに最期を迎えられるような支援に取り組んでいる。	
			(外部評価) 重度化した場合における（看取り）指針を作成しており、今までに利用者や家族の要望に応じて、1名の看取りを行っている。重度化した場合には、その都度説明を行って家族の同意を得ている。終末期には家族も寝泊りできるような環境を整えている。定期的に職員の勉強会を実施しており、終末期のケアを経験したことについて話し合いを行い、振り返りを行うことで職員の不安の軽減ができています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急時のマニュアルを作成し、周知徹底を図っている。また消防署立会の避難訓練の際に救命処置の訓練も行っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回火災の避難訓練を実施し利用者が非難する方法を身につけている。その他原子力災害、土砂災害の避難訓練も行っているが、地域の協力体制は整っていない。今後は、防災委員会を中心に地域の自主防災組織を交えての避難訓練が必要だと考えている。	
			(外部評価) 年2回消防署の協力を得て、火災の避難訓練を実施している。その他に原子力災害や土砂災害の避難訓練も行っている。職員緊急連絡網を整備し、実践訓練を年2回行っている。法人合同の防災委員会を中心に、地域の協力体制の充実を図れるよう、防災委員長が消防団に所属しており、地域の自主防災組織との連携を進めている。備蓄品も整備されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 「ここに入所して良かったと思って頂けるグループホームを作る」という理念のもと、人生の先輩に対して敬う気持ちを忘れずに、人としての尊厳を守り、笑顔で言葉掛けや対応ができるよう努めている。	
			(外部評価) 職員は思いやりのある言葉遣いをするように心がけ、人生の先輩である認識をもってケアに取り組んでいる。接遇の勉強会を行い、職員全員が正しい言葉遣いを理解し、利用者の不快にならないよう気を付けて支援している。身体をさらす場面として、排泄や入浴時の羞恥心への配慮もされている。個人情報の管理は厳重にされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者が答えやすいような質問の仕方をしたり、表情を読みとったりと、その方に応じた声掛けを行い、自己決定できるように働きかけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 食事や体操の時間は決まっているが、その他は1人ひとりのペースに合わせた暮らしができるよう支援している。本人の意向を尊重して、希望したとき時のみ行事、レク等へ参加して頂いている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 着替えの時には、好みの洋服を選んで頂いている。出張美容は3カ所あり、それぞれ好きな美容室でカットをしておしゃれを楽しんでいる。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者の役割として、食事作りや後片づけを分担して行っている。月2回は行事食の日を設け、厨房で作った季節感あふれる食事を提供している。苦手な献立の場合は代替えにして提供し、食事を楽しんでもらっている。	
			(外部評価) 栄養委員会で1年分の献立を決めており、毎月の献立を管理者が調整し、併設の特別養護老人ホームの栄養士のアドバイスをもらっている。各ユニットで事業所の畑で採れた新鮮な野菜を調理している。利用者に手伝ってもらいながら、食事作りや後片付けを行っている。職員も一緒にテーブルを囲み、介助しながら同じ料理を食べている。また、利用者の嗜好に応じた食事を工夫し、箸や茶碗や湯呑は個人の物を使用している。外食や毎月2回の行事食も提供し、利用者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) チェック表で個々の食事量と水分量を確認している。介護力向上委員会の取り組みにより、飲み物の工夫やこまめな水分補給で必要な水分量を確保できるよう支援している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 本人の力に応じた口腔ケアを行っている。自立の方には声かけを行っているが、毎食後はできていないこともある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表を活用しひとり一人の排泄パターンを把握して、誘導や声掛けを行い、トイレでの排泄を支援している。	
			(外部評価) 利用者の排泄パターンを把握して、一人ひとりの状態に合わせて支援している。日中は布パンツを使用している利用者も、夜間失禁のある場合はリハビリパンツを使用して、トイレ誘導を心がけて支援している。夜間のみポータブルトイレを使用するなど、利用者に応じた排泄支援が行われている。トイレには、跳ね上げ式のアームレス等を設置し、利用者が安心、安全に使用できるように配慮されている。また、排泄に失敗があった時には、トイレ内にシャワー室が設置され、清潔保持ができるように配慮されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排泄チェック表を活用し排便の確認をしている。介護力向上の取り組みに基づき、食事、水分、運動にを確実に行うとともに、食物繊維ファイバーや乳酸菌飲料、ヨーグルトを飲用し、できるだけ下剤に頼らず自然排便できるよう支援している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴前にバイタルチェックを行い、本人の希望を聞きながら入浴してもらっている。希望者には同性介助を行い、入浴を嫌がる方には、声掛けの仕方を工夫しながら入浴して頂いている。個々の状況に応じて入浴日以外にも足浴を行っている。	
			(外部評価) 浴槽は檜風呂の個浴で、両側から介助ができるように設置されている。脱衣室は床暖房が完備され室温調整できる。爪切りなど殺菌するボックスも設けており、衛生管理ができています。入浴用のタオルも利用者の好みに応じて個人用に準備されている。入浴は週2回であるが、希望があれば毎日でも対応できるようにしている。入浴の苦手な利用者には、声かけを工夫している。入浴介助はできる限り同性介助を心がけており、心地よく入浴できるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人ひとりの生活習慣に合わせて、休みたい時に休息が取れるようにしている。居室に限らず本人が落ち着ける場所で休んで頂けるよう配慮し、本人のペースで安心して休息できるよう支援している。夜間眠れない方には、ゆっくり話しを聞いたり、側に寄り添い安心して眠れるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 利用者の薬についてファイルを作成し、種類、作用、量について分かるようにしている。また薬の変更時には、引き継ぎや申し送りノートに記載して周知している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 菜園や中庭、ベランダで野菜を作ったり、掃除や洗濯、調理等、一人ひとりが得意なことを毎日の役割として行い、張りのある生活が送れるよう支援している。またホールや屋外への散歩等で気分転換が図れるように努めている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) できるだけ外出の機会が増えるよう計画をしている。何気ない日常の会話を通じて希望を伺い、足湯や外食、催し物等へ出かけられるよう支援している。	
			(外部評価) 事業所は高台にあり坂道があるため、日常的に敷地内の散歩をしたり、果樹や野菜の畑で職員と一緒に水やりや収穫をしたりしている。また、2つのユニットと広い地域交流ホールが回廊となっているため、1日数回利用者は職員と一緒に楽しく話しながら、体力維持を目的に歩いている。広いホールにはベランダがあり、ベンチに座り海を眺めながら外気浴もでき、利用者の気分転換になっている。利用者の希望に応じて、ふるさと訪問をしたり、家族と一緒に墓参りに外出したりしている。道の駅で買い物したり、足湯や外食をしたり楽しめるように支援している。なお、管理者は感染防止対策のため外出できない期間があり、外出できる時期の支援について検討している。	感染防止対策の必要性を考慮しながら、事業所の立地条件から遠出の外出となることも考えられる。管理者は外出の大切さを理解しており、利用者一人ひとりの思いを大切に、外出計画等を作成することを期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 入所時に、現金は預からないことを説明し同意して頂いている。本人の希望があり、家族の同意があれば少額のお金を所持し、自販機で自由にジュースを購入する人もいる。外出時には立て替え払いで買い物をしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話をかけたいと希望がある時には、できる限り対応している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 適切な温度や湿度調整を心がけたり、花やディスプレイで季節感を取り入れ、居心地の良い空間作りに努めている。またトイレの目印を掲示したり、居室入り口には本人の写真を掲示し、居室を間違えないよう配慮している。</p> <p>(外部評価) 2つのユニットは廊下でつながり、中央にスタッフルームが設けられ、広い地域交流ホールはドアで仕切られているが、自由に行き来ができるようになっている。リビングにはオープンキッチンや食卓や畳コーナーも設置されている。各所にソファが置かれ、休息できるスペースになっている。壁には食事前に口腔体操で使用される言葉が掲示されていたり、季節を感じることができるよう利用者の作品が飾り付けてある。玄関には利用者の作品の生け花が展示されている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) それぞれ思い思いの場所で過ごせるよう、ソファを置くなどして工夫している。冬には畳コーナーにこたつを置き自由に過ごせるようにしている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 入所時には、ご家族に依頼して家族の写真や使い慣れた家具等、馴染みのものを持ち込んで頂き、居心地良く過ごせるようにしている。</p> <p>(外部評価) 居室には低床にできる電動ベッド、クローゼット、エアコン、洗面台、鏡、床頭台、時計、温度計、湿度計が備え付けられて、空調管理ができています。トイレ付きの居室もユニットに2室ある。利用者が使い慣れたテーブルや椅子、テレビや家族写真の持ち込みができ、利用者と家族が相談しながら安心して居心地よく過ごせる居室づくりに努めている。また、利用者と職員が一緒に作ったのれんが居室に掛けられている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 一人ひとりの「わかること」「できること」をカンファレンスやユニット会で話し合い、今ある力を発揮して可能な限り自立した生活が送れるように支援している。</p>	